

登山の実施結果について(7月2日～9月7日実施分)

番号	学校名	行事名	実施山域	実施日(始期)	日数	参加生徒数	引率者	ルート及び通過時間	登山アドバイザー帯同			天候(上段)	特に配慮した点の特記事項	ヒヤリハット事例			
									人数	資格	要件	積雪量(下段)		具体的内容	背景要因	改善策	委員からの助言
1	宇都宮白楊高等学校	夏山登山	朝日岳・茶臼岳(那須町)	令和4年7月2日	1日(日帰り)	6名	2名 宇戸平友博 齋藤靖弘	JR宇都宮駅(6:57)→JR那須塩原駅(7:45)→那須ロープウェイ山麓駅(9:17)→峠の茶屋(登山口)(10:05)→峠の茶屋跡(10:50)→朝日岳山頂(12:00)→峠の茶屋(13:00)→茶臼岳(13:55)→那須ロープウェイ山頂駅(14:25)→那須ロープウェイ山麓駅(14:45)→JR那須塩原駅(16:40)→JR宇都宮駅(17:42)	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ2	第6号	晴れ 0mm	例年よりも梅雨明けが早く、連日猛暑が続いていたため、熱中症に細心の考慮をした。WBGT計を定期的に確認し、こまめに水分および塩分・糖分を補給させた。WBGT計も危険レベルに達することなく、生徒の体調も良好であった。	現地合流であった副顧問の齋藤先生が待ち合わせ時間になっても来ず、電話も繋がらず状況がわからず生徒と待機することとした。その後、合流でき、予定出発時刻よりも20分遅れての出発となってしまった。また、宇戸平の携帯から管理職に連絡してもつながらず、生徒の携帯電話を借りて連絡した。	想定よりも観光客が多く、那須ロープウェイ山麓駅付近の駐車場が混雑しており、大丸駐車場に車を停めることにし、そこからロープウェイ駅に向かうことになったため集合時間から遅れてしまった。また、連絡が繋がらなかったのはauの電波障害があり、宇戸平及び齋藤先生もau社の携帯電話であったため使用不可能な状態であった。(auの携帯に電波障害が起こっていたことは現地で知った)。終日、電波障害は改善されず、本部への連絡は生徒が所有しているdocomo社の携帯電話を借りて連絡を取った。	5月28日に那須登山をした際は駐車場にゆとりがあったため、これまでの混雑を予想していなかったためtwitter等で発信している混雑情報を事前に確認しておくべきであった。電波障害については想定外のトラブルであり、防ぎようのない事態であったが、顧問の所有するスマートフォンの携帯メーカーのみならず、同行する部員の所有する携帯メーカーも把握しておくことが一の場合も対応しやすくなると思う。	【問題なし】
2	宇都宮白楊高等学校	夏山登山	高原山(矢板市、塩谷町)	令和4年7月9日	1日(日帰り)	5名	2名 宇戸平友博 宇賀神瑞季	宇都宮白楊高校(6:00)→大間々台駐車場・登山口(7:30着 7:35発)→八海山神社(8:20)→高原山山頂(10:10着 10:35発)→八海山神社(12:10)→大間々台駐車場(13:10)→宇都宮白楊高校(15:15)	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第6号	曇り 0mm	登山実施日前に発生した台風4号の影響で、予報が不安定であったが、こまめに天気予報を確認し、7月6日に9日の登山決行を判断した。当日は終始曇り模様で所々ガスっていたが、行動可能な範囲であった。終始曇っていたこともあり、前週のような酷暑となることがなく、生徒たちも快調に行動できていた。	下山中の八海山神社～大間々台駐車場に向かう地点にて副顧問が転倒し、岩に足がぶつかる事案が発生した。幸いにも擦り傷程度で済んだが、打ち所が悪ければ大けがにつながる可能性があった。	後から追いついてきた他パーティー(15名ほど)がかなりのハイペースで下山をしてきており、本校のパーティーの真後ろにつかかちたこととなった。道幅にも余裕がなかったため、最後尾に付いていた登山アドバイザーから「追い抜いてもらおう」という指示があり、本校のパーティーは一旦停止することとなった。下山間際の疲労の蓄積や立ち止まることになったこと、他パーティーからのプレッシャーもあり、足が疲れてしまったことが考えられる。	今回の登山において最も疲労の様子が目立ったのがパーティーで唯一の女性である副顧問であった。そのため、様子を確認しながら下山中も無理のないペースを心掛けていたが転倒する事案が発生してしまった。他パーティーが追ってきていることもわかっていただけ、プレッシャーがかかる前に先頭をしていた私が余裕をもって停止できるようにすればよかった。また、他の登山者の動向もよく見ながら行動を心掛ける重要性を改めて感じたい。部員等にも共通理解を図りたい。	【問題なし】
3	大田原高等学校	夏山山行	三本槍岳(那須町)	令和4年7月9日	1日(日帰り)	6名 (3年生1名 2年生2名 1年生3名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	学校出発(5:45) == 北温泉駐車場着(6:50) → 北温泉出発(6:55) → マウントジーンズスキー場分岐(8:05) → 中の大倉尾根終盤(8:45) → 生徒1名が腹痛を起し、約30分休憩 → 下山開始(9:20) → Mtジーンズスキー場分岐(9:55) → マウントジーンズゴンドラトップで実習・昼食(10:05～11:30) → 北温泉着(12:10) → 温泉入浴後出発(13:00) == 学校着(14:45)	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	この日は曇りで昼過ぎから下り坂の予報だったため、前日に、早め早めの行動がとれるように周知していた。生徒の体調も問題なかったため、予定通り山行を開始した。いつも通り、測定を行いながら順調に山行を行っていたが、中の大倉尾根の終盤にさしかかかったところで、1年生が腹痛を訴えてきた。薬を飲み、30分程度様子を見たところ、痛みは軽減されていたが、大事をとって下山することにした。帰路の予定ではスキー場分岐から登山道を通って下山することになっていたが、マウントジーンズのゴンドラトップに立ち寄り、昼食休憩をとることとした(トイレ等の施設も使用できるため)。また、生徒の体調も回復していたようなので、登山アドバイザーからロープワークの実習を受けて下山した。	①腹痛を起した生徒がいた。 ②ザックカバーの保管場所を忘れた。 ③ヘビ(シマヘビ)がいた。以前にヘビの種類や対処に対する学習をしていたため、慌てずに対応できた。	①について、山行終了後に体調を確認すると回復していた。原因について聞いてみたがよくわからないとのことだったので、大切な荷物はビニール袋に入れた。下山後に確認したところ、ザックカバーにはザックが入っていた。ザック内に入れる荷物等は袋等に入れるなどの防水処理をするように指導し、収納、整理についてのアドバイスをした。	【問題なし】	
4	大田原高等学校	夏山山行	三本槍岳(那須町)	令和4年7月16日	1日(日帰り)	7名 (2年生2名 1年生5名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	学校出発(5:50) == 北温泉駐車場着(6:55) → 北温泉出発(7:05) → マウントジーンズスキー場分岐(8:15) → スダレ山(9:25) → 三本槍岳(10:05～昼食～11:00) → スダレ山(11:30) → Mtジーンズスキー場分岐(12:10) → マウントジーンズゴンドラトップで実習・昼食(12:25～実習～12:55) → 北温泉着・入浴(13:25) → 北温泉駐車場出発(14:40) == 学校着(15:45)	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	事前の予報では、7/16(土)～7/18(月)は曇りや雨となっていた。雨の中の山行を経験するという目標をたて、木曜日から実施の方向で準備していた。7/16は予想に反して曇りときどき晴れて、無事に登頂できた。山頂に到着し10分ほど経つと雲が張り詰め、昼食後下山する頃には雨がばらついてきた。カッパを着て下山し始めると間もなく雨もなくなり、北温泉に到着するまで曇り、ときどき雨だった。予定よりも早く着きそうだったことから、バスへの迎えの連絡をするためにマウントジーンズゴンドラトップを通過して下山することにした(マウントジーンズは携帯電話が通話可能)。前週に、ゴンドラトップでロープワークの実習を行っており、今回もロープワークの実習を行った。	①靴を忘れた生徒(1年生)がいた。 ②前週と同じ場所にヘビがいた。	①学校まで送迎してもらっている生徒で、サンダルで車に乗ってきた。学校に着いてから靴の忘れに気付いた。一旦家に戻り、現地(北温泉駐車場)で合流した。 ②ヘビの巣になっている模様。	①登山をする格好で車に乗り込む姿勢をつくるよう指導した。 ②ヘビについての学習はしているため、慌てず対処できた。	【問題なし】
5	栃木女子高等学校	令和4年度三年引退登山	日光白根山(日光市、群馬県利根郡片品村)	令和4年7月18日	1日(日帰り)	α5名 β5名 (それぞれ3年5名)	α2名 高橋秀明 森戸重臣 β2名 小椋康裕 池間明徳	栃女6:00→借上バス→日光白根ロープウェイ駐車場8:15～ロープウェイ～山頂駅9:00→七色平分岐9:50→白根山山頂12:00→七色平分岐13:40→山頂駅14:10→ロープウェイ～日光白根ロープウェイ駐車場出発16:00→借上バス→栃女18:10	α1名 β1名	両名とも日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	両名とも第2号第6号	曇り 0cm	・天候不良であったため予備日である7月18日(月)の実施とした。 ・天候が不安定であったため、雨具等の雨対策を徹底するとともに、山行中の目視による天候確認及びSNSによる天候予報等の情報収集の徹底など、天候悪化への対策を行った。 ・熱中症対策として、水分や塩分を多めに持たせ、小休止した際などに意識して摂取させた。 ・森林限界から山頂までは強風が予想できたため、風対策も徹底した。	なし	なし	なし	【問題なし】
6	宇都宮白楊高等学校	夏山登山	鳴虫山(日光市)	令和4年7月17日	1日(日帰り)	4名	2名 宇戸平友博 安江彩子	JR宇都宮駅(6:30)→JR日光駅(7:12)→鳴虫山登山口(7:50)→神ノ主山(8:40)→鳴虫山山頂(10:30着 11:00発)→独標(12:00)→慇懃ヶ淵(13:15)→JR日光駅14:40	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第6号	曇り 0mm	実施日前まで雨天が続いており、当日の天候にも不安があったが、登山アドバイザーとこまめに協議をし、前日の天気予報で実施時間帯に問題がなさそうと判断し、実施した。当日朝は栃木県内では所々雨が降っていたが、日光市では降っておらず、所々青空も見られた。登山道も濡れてはいたが、歩行できる状況であり、気温も高くなり過ぎず、比較的快適な登山を実施することができた。また、登山が初経験の部員もいたため、細かな指導を徹底した。	下山し、日光第一発電所付近の登山口にて部員1名の手ヒルがついているのを確認した。至急、取り除いたのが血が吸われていた。そのほか生徒にもヒルがついていないか確認したところ、他部員の靴下にも出血跡があり、ヒルが登山靴内に侵入し血を吸った。登山靴にも付着していたため、改めて入りにヒル除去スプレーを散布した。休憩時も参加者同士で身体やザック等にヒルがついていないか確認し合っていた。しかし、ヒル除去スプレーの効果も薄まったことが原因か下山完了直後にヒルの被害を受けてしまった。	ヒルが多く発生する場所というのは事前情報で把握していたため、顧問や登山アドバイザーの笹沼氏もヒル除去スプレーを持参しており、登山実施前に参加者全員にヒル除去スプレーを身体中に散布した。登山開始早々、ヒルが多く発生していることに気づき、登山靴にも付着していたため、改めて入りにヒル除去スプレーを散布した。休憩時も参加者同士で身体やザック等にヒルがついていないか確認し合っていた。しかし、ヒル除去スプレーの効果も薄まったことが原因か下山完了直後にヒルの被害を受けてしまった。	【問題なし】	

番号	学校名	行事名	実施地域	実施日(始期)	日数	参加生徒数	引率者	ルート及び通過時間	登山アドバイザー一同			天気(上段) 積雪量(下段)	特に配慮した点の特記事項	ヒヤリハット事例			
									人数	資格	要件			具体的内容	背景要因	改善策	委員からの助言
7	宇都宮高等学校	令和4年度社山登山	社山(日光市)	令和4年7月17日	1日	9名	4名 湯澤真一 富永孝昭 今井和彦 大和田哲也	宇高出発(6:50)→歌が浜駐車場(8:25)→ 狸窪(9:00)→半月峠(9:40)→ 中禅寺山頂(10:00)阿世湯峠(10:25)→ 社山雨量観測所(10:45)→ 社山山頂(11:40)→阿世湯峠(12:45)→ 阿世湯(13:00)→歌が浜駐車場(14:00)→ 宇高到着(15:30)	2名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ3	第2号	曇り時々 晴れ 0cm	前日までの雨の降り方によっては、登山道がぬかるんでいたりと、木のステップが濡れて滑りやすくなったというところから、足の置き場所に注意すること。 晴れ間が出ると、高所でも熱中症や脱水症に陥る危険性があるので、休憩は行動1時間につき10分間はとり、塩分を含め水分を休憩時に200cc程度は摂取すること。 地形図やコンパスを用い、現在地を確認しながら行動すること。	腐った立木を掴もうとして、立木が簡単に倒れて、バランスを崩した生徒がいた。 立木はしっかりと根が張っていて、安定した手がかりになる、という思い込みによる。	掴んだり、体重を預けたりするような木の場合、確実な手がかりになるかどうか実際に揺さぶるなど確認してから、手がかりの支点として利用する。不安な場合には確実な支点到スリングを掛けるなどする。	【問題なし】	
8	大田原高等学校	歩荷山行	朝日岳(那須町)	令和4年7月23日	1日(日帰り)	5名 (3年生1名 2年生1名 1年生3名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	学校出発(6:00) == 峠の茶屋(7:20) → 峠の茶屋(8:10) → 沼原温泉分岐(8:50) → 三斗小屋温泉(9:00)・温泉入浴・出発(9:50) → 隠居倉(10:45) → 朝日岳分岐(11:20) → 朝日岳(11:25) → 朝日岳分岐(11:35) → 峠の茶屋跡(11:55)・昼食・出発(12:40) → kokoshat(12:50) → 峠の茶屋(13:10) == 学校着(15:00)	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	基本的に晴れだったが、場所によって雲に覆われたり、小雨がぱらついたりしていた。今回は歩荷と朝日岳登山が目的であり、歩荷ではほとんどの生徒が10kg程度(一つだけ18kg)の荷揚げを行った。朝日岳分岐で昼食の予定だったが、風が強いため峠の茶屋跡で昼食をとることにした。コロナの中、宿泊ありの登山が行えない現状、あえて負荷をかけたことはよい経験になった。日頃の練習の成果もあり、無事に荷揚げと登山を完遂できた。	無風の場所もあれば、最大瞬間風速15m/s(朝日岳分岐)のところもあるなど、場所によって風力はさまざまだった。	日本海側の風が吹き込む峠の茶屋跡や朝日岳分岐は風が強い。	事前に強風の予想や対策方法を共有しておいた。	【問題なし】
9	大田原高等学校	歩荷山行	朝日岳(那須町)	令和4年7月24日	1日(日帰り)	7名 (2年生3名 1年生4名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	学校出発(6:00) == 峠の茶屋(7:20) → 峠の茶屋(8:30) → 沼原温泉分岐(9:16) → 三斗小屋温泉(9:35)・温泉入浴・出発(10:20) → 隠居倉(11:05) → 朝日岳分岐(11:50) → 朝日岳(11:55) → 朝日岳分岐(12:00) → 峠の茶屋跡(12:20)・昼食・出発(12:55) → kokoshat(13:05) → 峠の茶屋(13:30) == 学校着(15:00)	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	スタートから三斗小屋温泉までは晴れが多く、三斗小屋温泉から朝日岳は曇りがかかっていた。朝日岳分岐での瞬間最大風速は6m/s程度と最も高かった(前日より風は強くなかった)。生徒は10kg程度の荷物を運んだが、25kgのドライモルタルが二つあった。一つは、ドライモルタル専用のザックにして、それを生徒が交代しながら運んだ。重い荷物を持ち上げることやそれを運ぶことはなかなか経験することがないので、貴重な経験となった。(もう一つは顧問が運び、緊急時に生徒を担ぐかどうかを自問自答しながら運んだ) 朝日岳分岐よりも峠の茶屋跡の方が天候が安定しているのが確認できていたため、峠の茶屋で昼食を摂ることにした。	荷物の交代時に必要以上の時間を費やされてしまい、前半の行動が予定よりも遅れてしまった。	歩荷という経験が初めてであり、また、25kgの重さが生徒の予想以上の重さだったことから会話に夢中になってしまった。	三斗小屋に物資を届けた後に、気持ちは入れ替えて登山を行うよう、意識の共有を図った。	【問題なし】
10	宇都宮白楊高等学校	夏山登山	太平山・晃石山(栃木市)	令和4年7月30日	1日(日帰り)	7名	2名 宇戸平友博 宇賀神瑞季	JR宇都宮駅6:33→JR太平下駅(7:34)→ 太平山登山口(8:00)→謙信平(8:30)→ 太平山山頂(9:05)→晃石山山頂(10:00)→ 大中寺(11:40)→JR太平下駅(12:20)	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第6号	曇り 0mm	1年生にとって2回目の登山であった、前日に教えたことが覚えているかを確認しながら実施した。前回の山よりもコースが短く、低山であったため余裕も見られた。	特になし	特になし	特になし	【問題なし】
11	栃木高等学校	令和4年度谷川岳登山	谷川岳(群馬県利根郡みなかみ町)	令和4年7月30日～8月1日	3日	1名	2名 野沢真一 加藤良栄	【7月30日】 栃木駅(14:13)→新前橋(15:31)→ 水上(17:50)→土合駅(17:58)→ 土合山の家(ホテル)(18:05) 【7月31日】 宿泊地発(7:00)→天神平駅(7:30)→ 天狗の留まり場(9:20)→肩ノ小屋(10:43)→ トマの耳(10:50)→天狗の留まり場(12:00)→ 天神平駅(13:30)→宿泊地着(14:30) 【8月1日】 土合山の家(ホテル)→土合駅(8:40)→ 水上(9:00)→新前橋(10:48)→栃木駅(12:12)	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第2号	晴れ 0cm	不安定な天候が予想されたため、アドバイザーの意見も参考にし、行きもロープウェイを利用した。また、早め早めの行動をした。	気温が高く熱中症のリスクがあった。	全国的な酷暑日であったため標高が高いにもかかわらず気温が高かった。	こまめな水分補給と休憩、疲れないようにゆっくり歩く。 アドバイザーの意見をもらいながら柔軟に計画変更をする。	【問題なし】
12	宇都宮高等学校	令和4年度那須岳登山	那須岳【三本槍岳】(那須町)	令和4年7月31日	1日(日帰り)	9名	4名 湯澤真一 富永孝昭 今井和彦 大和田哲也	宇高(6:50)→那須岳登山口(8:50)→ 峰茶屋避難小屋(9:25)→朝日岳分岐(10:05)→ 熊見曾根(10:19)→清水平(10:37)→ 北温泉分岐(10:55)→三本槍岳山頂(11:20)→ 清水平(12:11)→熊見曾根(12:32)→ 朝日岳分岐(12:40)→峰の茶屋避難小屋(13:30)→ 那須岳登山口(14:05)→宇高(17:00)	2名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第6号	快晴 0cm	・気温が高くなるのが予想されたので、水分や塩分の補給、着衣の調整をこまめに行うこと。 ・持参したヘルメットは、着用しないときにはザックにしっかりと固定しておくこと。 ・注意すべき岩場の通過は三点支持を確実にし、経験のない生徒は経験者の間に入れて通過させること。 ・パーティの体力を考慮しつつ、歩行速度を速めて行動時間を短縮すること。	なし	なし	なし	【問題なし】
13	栃木女子高等学校	令和4年度夏山登山	赤城山【黒檜山・駒ヶ岳】(群馬県桐生市、前橋市)	令和4年8月2日	1日(日帰り)	7名(2年生)	2名 小椋康裕 竹前陸	栃女7:00→→黒檜山入口9:35→猫岩10:30→ 駒ヶ岳分岐11:35→黒檜山山頂11:40→ 大ダルミ13:05→駒ヶ岳山頂13:35→ 平場13:40→駒ヶ岳入口14:20→ 覚満淵入口14:25→ 赤城山ビジターセンター15:00→→栃女17:00	1名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第2号 第6号	晴れ 0cm	事前の調査などから最初の急登が厳しいことがわかっていたので、丁寧な歩行とゆったりしたペースを心掛け、呼吸を整えるだけの休憩を多く入れた。それでも平均的なペースで活動できた。 熱中症対策として、水分や塩分を多めに持たせ、小休止した際などに意識して摂取させた。 前日など夕方雷雨が各地で発生していたため、山行中雨雲が発生していないか、予兆があるかなどアドバイザーと確認しながら歩いた。	なし	なし	なし	【問題なし】
14	宇都宮高等学校	令和4年度白根山登山	白根山【菅沼ルート】(群馬県片品村)	令和4年8月6日	1日(日帰り)	9名	4名 湯澤真一 富永孝昭 今井和彦 大和田哲也	宇高(6:55)→菅沼登山口(9:00)→ 弥陀ヶ池(10:45)→白根山頂(11:55)→五色沼(13:10)→弥陀ヶ池(13:40)→菅沼登山口(14:50)→宇高(17:00)	2名	日本スポーツ協会公認山岳コーチ1	第6号	曇り時々 晴れ 0cm	・行動中は暑くなり多量の汗をかくが、高山帯のため気温が低く、休憩中は汗冷えや風の影響で低体温症の恐れもあることから、着衣の調整はこまめに行うこと。 ・ヘルメットの着用時は、あごひもをしっかりと固定すること。 ・注意すべき岩場の通過は三点支持を確実にし、経験のない生徒は経験者の間に入れて通過させること。 ・岩場やげし場の通過時は、落石に注意して歩行すること。	なし	なし	なし	【問題なし】

番号	学校名	行事名	実施山域	実施日(始期)	日数	参加生徒数	引率者	ルート及び通過時間	登山アドバイザー帯同			天気(上段) 積雪量(下段)	特に配慮した点の特記事項	ヒヤリハット事例			
									人数	資格	要件			具体的内容	背景要因	改善策	委員からの助言
15	栃木女子高等学校	令和4年度 一年生歓迎 登山	社山・半月山 (日光市)	令和4年 8月8日	1日 (日帰り)	4名 (1年生)	3名 高橋秀明 池間明徳 竹前陸	栃女6:00→借上バス→歌が浜駐車場8:00… 阿世湯9:00 …阿世湯峠9:30… 社山手前ピーク9:50…阿世湯峠10:00 …半月峠11:00…半月山展望台12:00… 半月山12:10…半月山展望台12:20~12:40 …半月山駐車場13:00→借上バス→ (日光の温泉施設)13:50→14:50→栃女16:30	1名	日本スポーツ 協会公認 山岳コーチ1	第2号 第6号	晴れのち 曇り 0cm	・一年生にとって初めての登山であったため、顧問3人で対応した。 ・阿世湯から阿世湯峠まで工事箇所があったため、アドバイザー及び工事関係者の助言のもと慎重に行動した。 ・熱中症対策として、水分や塩分を多めに持たせ、小休止した際などに意識して摂取させた。 ・体力面や天候面について考慮した結果、社山は山頂まで行かず途中のピークで引き返し、下山地点も中禅寺湖展望台駐車場からエスケープルートである半月山駐車場へ変更した。	なし	なし	なし	【問題なし】
16	大田原高等学校	那須山行	黒尾谷岳・ 南月山・ 白笹山 (那須町)	令和4年 8月20日	1日 (日帰り)	7名 (2年生3名 1年生4名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	保護者送迎車で南が丘牧場駐車場集合(6:45) == 登山口(7:25) … 黒尾谷岳(8:35) … 南月山到着(9:50)(昼食) 南月山出発(10:30) … 白笹山(11:05) … 沼原湿原駐車場(12:10) 現地解散	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	天気予報では夕方から雨の可能性もあったため、予定時間を目安にしつつ、迅速に行動した。予定時間よりも1時間以上早く山行を終えたが、山行直後から雨が降り出し、結果的には良い終わり方をした。黒尾谷岳の登山口は非常にわかりづらい場所であったため、南が丘牧場駐車場に集合することにし、時間に遅れることなく集合できた。	①地図を忘れた生徒が1名いた。 ②ぬかるみで滑った。	①登山にまだ不慣れな生徒で、前日(学校)での最終チェックでは持っていたが、家に置き忘れてしまった。 ②全体的に湿っており、湿度は90%を超えるところもあった。	①まずは慣れていくこと。 ②とりあえず滑ったものの、滑ることはあり得ると考えていたため、怪我や事故につながることはなかった。滑りやすい箇所ではよく声を回すことができていた。	【問題なし】
17	大田原高等学校	那須山行	黒尾谷岳・ 南月山・ 白笹山 (那須町)	令和4年 8月21日	1日 (日帰り)	5名 (2年生1名 1年生4名)	2名 高梨和幸 片柳剛史	保護者送迎車で南が丘牧場駐車場集合(6:45) == 登山口(7:20) … 黒尾谷岳(8:40) … 南月山到着(9:50)(昼食) 南月山出発(10:40) … 白笹山(11:10) … 沼原湿原駐車場(12:20) 現地解散	1名	なし	第6号	晴れ・曇り 0cm	山行当日は、時折雲が発生していたが、概ね晴れていた。黒尾谷岳の登山口はわかりづらい場所であったため、南が丘牧場駐車場に集合することにし、時間に遅れることなく集合できた。南月山から白笹山へのルートでは樹高が低い(頭部に枝等があったりやすいため)、ヘルメットを着用して下山した。また、白笹山ルートは他よりもゴミが目立ち、ゴミ袋に回収しながら下山した。	①ぬかるみで滑った。	①前日が雨、そして湿度が80~95%だった。特に白笹山付近はぬかるみが多かった。	①とりあえず滑ったものの、滑ることはあり得ると考えていたため、怪我や事故につながることはなかった。滑りやすい箇所ではよく声を回すことができていた。	【問題なし】
18	宇都宮白楊高等学校	夏山登山	男体山 (日光市)	令和4年 8月27日	1日 (日帰り)	A隊6名	A隊2名 宇戸平友博 宇賀神瑞幸	宇都宮白楊高校(6:00)… 日光二荒山神社(7:10)… 男体山登山口(7:30)…3合目(8:15)… 4合目(8:40)…8合目(10:20)… 男体山山頂(11:15着 11:50発)… 8合目(12:30)…4合目(14:00)… 二荒山神社(15:05)…宇都宮白楊高校(17:00)	A隊1名	日本スポーツ 協会公認 山岳コーチ1	第6号	晴れのち曇り 0mm	過去の山行の中でも難易度が高い山であるため、細かなミーティングをするのと同時にトレーニングも徹底し、入念な準備を心掛けた。	生徒1名が下山途中に疲労が見られ、他メンバーよりも足取りが遅くなっており、6合目休憩時に時折軽い吐き気がするという申し出があった。脱水症状も考えられたため、経口補水液および塩分の補給を行い、歩行は可能であるため、様子を見ながら下山を継続した。こまめな休憩を入れながら、荷物をパーティー内メンバーで分散して、本人ができるだけ負担がかからないようにして下山を行った。徐々に回復していったようで、下山完了時には特に問題なく吐き気等もなくなったとのことであった。	元々は部内でも体力がある方の部員であったが、進路等の多忙も重なっての疲労もあった可能性がある。難易度の高い山であり長時間の登山であったため、普段よりもゆったりとしたペースを心掛け、こまめな休憩を取っていた。また、標高が高く、比較的涼しい条件であり、WBGT計の数値も高くなかったが、症状が現れてしまった。	今回は軽度の症状のうちに対応でき、本人も歩行が可能であったため荷物を軽減するなどして事なきを得た。しかし、症状が重く本人が歩行も難しい場合には対象者を背負っての救急搬送も必要である。そのため、普段の部活動においてセルフレスキュー方法について生徒に学習させることも不測の事態に対応できて良いのではないかとアドバイスをいただいたため、実践していきたい。	【問題なし】
						B隊5名	B隊2名 安江彩子 齋藤靖弘	宇都宮白楊高校(6:00)… 日光二荒山神社(7:10)… 男体山登山口(7:40)…3合目(8:30)… 4合目(8:50)…8合目(10:40)… 男体山山頂(11:30着 12:10発)… 8合目(12:50)…4合目(14:30)… 二荒山神社(15:30)…宇都宮白楊高校(17:00)	B隊1名	日本スポーツ 協会公認 山岳コーチ1	第6号		引率教諭1名が下山完了間際となる2合目通過後、歩行は可能であったが疲労蓄積によって膝に力が入りづらい状態となった。負担を減らすため、登山アドバイザーの増淵氏が該当者分のザックを背負い、下山した。それまで順調なペースであったが、2合目から麓までの所要時間が目安タイムよりも長い時間を費やした。下山終了後、冷却スプレー等で応急手当をした。	長時間行動による疲労蓄積が原因と考えられる。	引率教諭は生徒よりも登山経験があるが、年齢を重ねているため、身体へのダメージを受けやすく、怪我のリスクもある。そのため、生徒同様に顧問陣も入念な準備とケアを心掛けて、怪我のリスクを抑えていく必要がある。	【問題なし】	